第 1 回中間報告書

2026 年 7 月～2026 年 10 月

秋学期 / Semester 2, Week 1–Week 10

国際ロータリー第 2710 地区

2026-2027 年度 グローバル補助金奨学生

菊地 真理子

1. 報告書提出日

2026 年 10 月 21 日

2. 基本情報

- **氏名**：菊地 真理子（Mariko Kikuchi）
- **派遣元・受入地区 / クラブ**：

  派遣クラブ・カウンセラー：広島東南ロータリークラブ/赤川 浩二　様

  受入クラブ・カウンセラー：Rotary Club of Drummoyne / Hilary Lloyd 様
- **教育機関**：University of Sydney（シドニー大学）
- **専攻分野**：Master of Social Justice (Development Studies)

3. 学業面での成果

7 月 21 日に到着し、8 月からコースワークが始まりました。ついてすぐに学部のオリエンテーション、Peer support イベントなどがあり、徐々に慣れていくことができました。私のコースは 18 ヶ月間のコースで、計 3 セメスターで構成されています。各セメスターでは 4 つずつ科目を履修し、それぞれ 1 時間のレクチャー、1 時間のチュートリアル（少人数）が毎週あります。今期受講している各科目について、シラバスの目標および学修・議論内容を踏まえた成果と学びをご報告いたします。

【DVST6901】The Global Politics and Development

- **概要**：戦後の自由主義的国際秩序による「近代化」のビジョンが揺らぐ 21 世紀において、開発が持つ意味を再考する科目です。分断と不平等が深まる世界の中で、人・資本・病原体・沿岸線の移動や国境の再編を背景に、富裕社会が「グローバル・マジョリティ」に果たすべき責任を問うと同時に、開発の焦点が経済成長から保健、女性や周縁化された人々（先住民族、ゲストワーカー等）へと拡大・移行してきた過程と、それに伴う新しい政治や「進歩」の概念を検証します。
- **成果と学び**：開発言説の歴史的変遷やグローバルなパワーダイナミクス、行政的可視性（Legibility）の限界について理論的考察を深めています。二時間のほとんどがディスカッションで、一週目は心が折れるかと思うほどでしたが、毎週のリーディングとディスカッションへの参加で少しずつ知識が定着してきたことを実感しています。中間のレポートでは高得点をいただきました。

【DVST6904】Rethinking Poverty

- **概要**：国連ミレニアム開発目標（MDGs）など主要な国際プログラムでも中心に掲げられてきた貧困削減について、その本質と分析手法を多角的に学ぶ科目です。「社会的排除」「ケイパビリティ（潜在能力）」「社会関係資本（ソーシャル・キャピタル）」「持続可能性」といった概念を用いて貧困の捉え方を拡大し、世界各地のケーススタディを通じて、言説・政策・開発実践が相互に作用するメカニズムと、最も脆弱な人々に与える影響を評価します。
- **成果と学び**：単なる経済的指標にとどまらない多次元的な貧困の概念を学び、貧困削減アプローチの理論的変遷を整理しました。制度や言説がどのように当事者の現実に影響を及ぼすかをケーススタディから分析し、持続可能かつ実効性のある福祉・支援メカニズムのあり方について検討を深めています。

【PACS6911】Key Issues in Peace and Conflict Studies

- **概要**：平和および紛争研究（Peace and Conflict Studies）の学際的領域への導入として、平和の歴史、哲学、経済、政治について探求する科目です。暴力の発生原因を解明するとともに、非暴力アプローチ、平和的な紛争解決策、そして多様な紛争状況において「正義を伴う平和（Peace with Justice）」を達成するための様々な手段について学びます。
- **成果と学び**：構造的暴力や紛争の背景にある多面的な要因を理解し、非暴力による紛争解決や平和構築の論理的フレームワークを習得しています。正義と平和の共存に向けた実践的なアプローチを学び、平和構築と社会支援の接続に関する視座を高めています。中間レポートでは、過去のウガンダでの経験について、授業で獲得した理論などを当てはめました。自身の経験と照らし合わせることで、理論にとどまらない学習を行っています。

【PACS6934】Conflict-Sensitive Development Practice

- **概要**：武力紛争や極めて複雑な環境下で実施される国際開発および人道支援が、かえって紛争を助長するリスク（Do No Harm 原則の必要性）を回避し、地元の平和への能力（Local Capacities for Peace）を最大化するための「紛争に配慮したアプローチ（Conflict-Sensitive Approach）」を学ぶ実践的な科目です。紛争分析の理論と手法を適用し、現場でより効果的かつ説明責任を果たす介入設計の技術を習得します。
- **成果と学び**：具体的な紛争分析ツール（Conflict Analysis Tools）を用いて実際の現場事例を解き明かし、支援介入が紛争要因に与える負の影響を最小限に抑える具体的な設計技法を学んでいます。人道支援・開発支援における倫理的課題と実務上の運用ノウハウについての理解を確固たるものにしています。現在南スーダンを事例にしたプレゼンテーションを用意しており、実践的な学びを実感しています。

4. 受入地区でのロータリークラブとの関わり、奉仕活動、カウンセラーとの交流

受入地区（第 9675 地区）およびホストクラブである Club Drummoyne の皆様、そして

カウンセラーの Hilary Lloyd 様には、温かくお迎えいただき、生活・学業の両面で手厚いサポートをいただいております。定期的なコミュニケーションを通じて進捗をご報告しております。クラブ例会が授業と時間が被っているのですが、中間休暇の際に伺ってプレゼンテーションをさせていただきました。他のクラブ行事（ピースワークショップやボランティア、朝食ミーティング）にも積極的に参加させていただき、ロータリアンの皆様との交流・相互理解に努めております。毎日大学と家の往復しかしていない私を気にかけ、中間休暇の際には、ブルーマウンテンやビーチに連れて行ってくださいました。Lloyd さん自身がシドニー大学の教授を約 35 年間勤めていることもあり、学業についても相談に乗っていただいております。

5. 直面した課題・問題等

到着時にホームステイしていた家の家族内で引越しがあり、新居を探すことになりました。1 ヶ月半ほどお世話になったお家でしたが、無事新しい家（シェアハウス）も見つかり、落ち着いた生活ができております。

6. 今後の課題・目標

今期後半に向けて、各科目の期末論文（Research Essays）およびプレゼンテーションの準備に全力を尽くします。特に、実践的なケーススタディ分析と質的・量的研究手法の応用を意識し、将来の研究・実務につながる高い完成度の成果物を仕上げることを目標としています。

7. その他特記事項

シドニー大学での学びが始まり、新しい学術的環境や多国籍なコースメイトとの議論の中で試行錯誤しながらも刺激的な毎日を過ごしております。ロータリー奨学生としての機会を与えてくださった皆様への感謝を胸に、残りの期間もより一層努力を重ねてまいります。



Lloyd さんに連れて行っていただいた Blue Mountain です。 4 時間ほどのコースを一緒にハイキングしました。

ロータリーのピースワークショップです。10数名ほどの参加で、良い交流と学びの時間になりました。大学での学びと交差する点も多く、積極的に参加することができました。





キャンパスの様子です。毎日歩いても飽きないほど美しいキャンパスには、オーストラリア最古の大学の歴史を感じる建物がたくさんあります。このような場所で学ぶ機会があることに、本当に感謝です。